

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200094		
法人名	医療法人社団三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」2号館 ひびきユニット		
所在地	名寄市大通北5丁目4番地		
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果市町村受理日	平成24年11月12日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年10月開設に向けて、入居される方には個々に会い家族を含め情報を収集した中で、出来る限りこれまでの習慣を取り入れるように、特に食習慣は継続できるように支援してきました。また、立地的に近くにコンビニや公園があり、日常的に散歩などで公園を活用し、希望に添ってコンビニにも出かけています。スタッフは未経験者が多い中、開設前に同法人グループホームで数か月間の研修、勉強会を経てきましたが、認知症介護の知識、技術についての未熟さを痛感している所であり、実践を積み重ね入居者に教わりながら日々、少しずつではありますが、実力をつけながらユニットを築きあげている所です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年9月28日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「里の家」2号館は、名寄市の幹線道路に面し、向かいにはコンビニが、近くには大きな公園もある環境に恵まれた立地となっている。平屋建てのゆったりした建物は利用者にとって安全で、外観もシックで落ち着いた住まいとなっている。本体法人としては名寄に2館目のグループホームである。名寄市の社会情勢から必要不可欠なサービス事業所として、名寄市の強い要請により開設されたところである。開設してまだ1年であるが、このホームの施設長は、地域に溶け込み理解が得られるよう開設前に町内会を訪れ、ご挨拶とグループホームの役割を説明しており、利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう取り組んでいる。また、当ホームに対する質問に応える機会を再度設け、疑問に答え信頼関係づくりに努めてきた。地域の町内会長も大変協力的で、事前の行事への参加呼び掛けや避難訓練時の声掛け・協力も頂いている。利用者・家族の要望に応えられるように職員のスキルを高め、より良いグループホームを目指して取り組んでいるところである。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は作り上げているが、理解については職員間でバラつきがあり、共有できていない。理念を再確認しケアプランと関連した実践が必要。	同法人運営の他のグループホームと同じ理念を掲げ、理念に沿ったケアに努めている。利用者のペースに合わせるケアに努め、一緒にいる時間が多く取れるように心掛け、安心して暮らせるように職員は工夫し日々実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	一年満たないので日常的とまではいかないが、町内会の催し物の誘いを受け、参加させて頂いたり徐々に交流は持ってきている。	施設長は開設前に地域を訪れ、挨拶やグループホームの役割を説明する機会を設け、利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう取り組んでいる。町内会に加入する事で地域の行事内容も把握し、会長との信頼関係も構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援については、もっと実践を積み上げていかなければならず、地域の方々に向けて活かすところまでは至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し町内会、市、包括支援センター、家族からの意見や質問に対しては都度、検討しサービスに活かせる所は活かしている。	運営推進会議では利用者、家族、町内会長、副会長、福祉部長、民生委員、行政や地域包括支援センターの職員が参加し、定例開催が続けられている。活発な意見交換が行われサービスの向上に活かしている。会議の会議録は出席出来ない家族に配布し、情報が共有されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	多くは運営推進会議を活用し、市担当者、地域包括支援センター職員へ日々の暮らしや活動を伝え、事業所の目線で取り組み等を聞いてもらえるので、相互に良い関係性が築けていると思う。	名寄市の意向で開設された事で信頼関係は十分にあり、日ごろから連絡は密に行っている。市主催の地域ケア会議に出席する事で、他のサービス事業者とも情報交換を行い、地域の情報や情勢等も把握できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設前に勉強会を行っている。玄関の鍵は防犯のため夜間のみ施錠とし、日中は施錠していない。ただ、認知症の人への関わりは職員の対応も様々になってきているので、ケース毎に掘り下げて検討、対応し重度になっても身体拘束につながる事のないケアの実践を確立していきたい。	身体拘束については契約書に行動の制限はしないと謳い、全く行っていない。今後は研修の充実を図り、接遇や会話の暴力についての知識を強化していく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で取り上げ周知、理解し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者が1名いて入居前に手続きをし、後見人に契約等立ち会ってもらった。以降対象者がいないため改めて学ぶ機会は持っていないが、今後機会を持ち必要時に活用し支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を時間をかけ説明し、理解、納得は得られていると思う。改定時には説明文を送付し、同意書ももらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者本人、家族等の来訪時には何かあればいつでも言ってもらえるよう雰囲気作りを心がけているが、改めて伺うのは多くはケアプランの説明時で、意見や要望等があれば検討し反映に結びつけている。	面会に訪れる家族も多く、職員は積極的に話しかけ、聴ける場面づくりを工夫している。3ヶ月に1度通信を発行し、グループホームの活動状況を写真で伝えている。紙面には個別に一言加える部分もあり手書きで様子も伝えている。	外出や活動内容、生活の様子を個々に詳しく伝える事で、より深くホームの生活が家族にも理解してもらえる。個別の通信等により、生活の中の表情や行動・参加の状況などが伝わる工夫を望みたい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設準備段階から協力し行っていて、催し物についても、予定を立てて提案し実践出来ている。	毎日の申し送りや全体会議各ユニット会議で、職員が意見を言える機会がある。利用者ごとに担当がアセスメント、モニタリング、ケア計画作成の役割があり、責任を持って意見が言え、聴ける仕組みとなっている。人事考課の体制もあり、施設長は年2回個別面談で話を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入していて、資格取得に向けた環境と条件は整っているが、年数が浅いためまだ実績がない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設前には内部、外部と多くの研修を受けた。開設後も定期的に内部で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前に他のグループホームで研修をさせてもらい交流が持てた。今後も交流の機会を持ち続けたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人に会いに行き、会話の中で情報収集し、可能な限り見学にも来ていただき、不安を取り除けるよう、初期ケアプランを作り安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の段階で家族からも情報もらい、コミュニケーションを密に図るよう努め入居時、入居後も円滑に進められるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケースに合わせ、入居前には必要に応じデイサービス利用やショートステイを勧めたり本人、家族の不安軽減に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実際は本人から学ぶことも多く、暮らしを共にする関係性という意味では、築き上げている所。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	直接、家族と連絡を取り合う職員は管理者、計画作成担当者が殆んどだが、家族の思いや意向はカンファレンスを通し、職員間で共有するようにし、家族が来訪された時も気兼ねなく過ごせるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や習慣など、入居時に伺い自由にきていただいたり、入居前と同じように定期的にお参り行けるよう支援したり、出来る限り関係が切れないよう支援に努めている。	これまでの生活で築いてきた知人・友人との面会で関わりを継続しており、家族の協力による墓参り、初詣、帰省、温泉に行く事等を後押ししている。以前から利用している理・美容院についても、継続している。希望の菜園づくりには、ホームでポット菜園を用意し、植え付けや収穫に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	強い難聴の方には職員が介入したり、気が合う、合わない等、対人関係を把握しトラブルになりそうな兆候がある時は話題や場所を変えたりと配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一年満たないため、事例がないが今後、必要に応じて支援していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で、把握し出来る限り本人本位の支援に心がけている。	入居時に本人や家族から細かく情報収集し、想いや暮らしの希望を聴いている。その後担当者が定期的なアセスメントし生活状況の変化を掴んでいる。計画作成者は総合して整理し、ケアプランを利用者・家族に説明している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に家族から伺うが、生活歴は家族でも解らない部分がある。これまでのサービス利用は把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態や有する力については、職員間で共通した共有とまでに至っておらず、センター方式のシートを活用するなどし、共有に努めていく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いは職員のみで行っていて、家族へ介護計画の説明をする際、意見や意向を伺い反映するようにして、モニタリングは3か月以内に一度行っている。	担当者は期間毎にモニタリングし、ユニット会議で話し合い評価している。介護計画に変更が必要な時は、利用者にとってどのようなケアプランが最良なのか検討し、次期計画に反映している。目標に沿った記録がケアプランに反映出来るようにする事を、今後の課題としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事柄はセンター方式シートを活用するなどし、日々の記録と併せてカンファレンスで話し合うようにしているが、職員間ですべての情報の共有とまでに至らず、介護計画の充実のためにも現在、模索している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでできることを出来る限り、柔軟に取り組んでいると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに公園があり、散歩しながら散策したりコンビニへ買い物に出かけたりもしている。今後もエリアを広げ支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を出来る限り継続しているが、近くに母体病院があり本人、家族が希望、了承された段階でかかりつけ医を移し、適切な医療を受けている。	ホーム利用前の主治医が継続され、受診は職員が同行し受診後の報告も適宜家族に行っている。家族の同行が必要な時も、一緒に話を聴きケアに活かしている。母体病院が近くにある事で連携も取れ、安心の一つとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携として母体病院から、週に一度看護師訪問があり、相談にのってもらったりアドバイスを受けている。その他にも何かあれば連絡を取り、相談にのってもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ事例がないが、そのような場合は病院関係者と情報交換をし、関係づくりに努めたい。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後に向けてそのような時期が予測できた段階で、話し合って事業所で出来ることを支援していきたい。	医療連携体制で重度化した場合における対応の指針が明記され、利用者・家族に説明し同意されている。看取りに関しては今後の需要も想定されるので、職員教育を強化し基盤固めが出来た時期に検討する予定となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設前に全職員が消防の協力の下、救命講習を受けた。今後も定期的に行っていきたい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時には近隣の町内会の方々に避難誘導のお手伝いをいただいた。これからも定期的に行うと共に、呼集訓練や様々な災害に備えていけたらと思う。	地域の協力を得ながら春には避難訓練が行われた。今後も呼びかけを行い訓練実施を予定している。平屋での利点が活かされ前回は素早く脱出できている。夜間想定も計画され、職員の各種講習も終了している。	グループホームとして現在想定できる災害に向けた事前の準備として、食料・水・防寒用品の備蓄、オール電化事業所としての停電時の対策、河川の氾濫時の対応などの検討が望まれる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部屋に入らせてもらう時は必ずノックをし確認しているが難聴の方のトイレ誘導等、つい大きな声で対応してしまうことがある。	一人ひとりの人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスに努める事を理念に掲げている。研修の機会を多くし接遇や尊厳を大切に出来るケアを学びたいとしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や入浴など、日常の小さなことは自己決定できるよう心がけているが、思いや希望を引き出すような関わりにはまだ不十分と思える。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては「待ってね」と言ってしまうことがあるが、散歩やドライブなどの希望には応えるように心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマ、カット、毛染めなど希望も含め適宜、支援できている。しかし、季節に合わせた身だしなみの支援がまだ不十分といえる。着衣失行などでバラバラな着方の時もある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせこれまでの食習慣を取り入れたり(パン、牛乳を習慣にしていた等)好みの物を提供することをしている。食事の準備をする際にも簡単な準備や後片付けも日常的に一緒に行っている。	メニューは職員が考え調理し、一緒に食事をしている。イベントに合わせた献立もあり、誕生日や祭り、焼き肉会、花見にお弁当を持参するなど工夫もしている。町内開催のジンギスカンパーティーにも全員で参加し、交流に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ないという方は好みの飲み物を提供したり、牛乳を習慣的に飲んでいただくとともに、食形態についても米飯、粥、荒刻み等個々に合わせるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人は、本人に任せていて確認までは行っていない。口腔ケアの大切さを全員で共有していく必要はある。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品を使用している方は数名ですが、オムツを使っている方はいなく、排泄の間隔をみてトイレ誘導の支援をしている。	生活習慣や排泄パターンを把握し、トイレへの声かけ誘導を行なっている。パット利用時は見えないように工夫するなど羞恥心に配慮している。また、夜間も出来るだけトイレ排泄を心掛け誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを提供する程度で、便秘が強く下剤が処方されている方が3名で、これらで便秘は予防されている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自ら希望されたり、一番先に入浴したい等の希望には添うようにしているが、全体的に積極的な希望が少なく間隔をみて勤めることが多い。	オール電化の為水量の関係で、毎日少人数が入浴する対応となっている。回数も利用者の希望を取り入れ、週2～5回となっている。強い入浴拒否のある方も、上手に声掛けし、気持ち良く入浴してもらえるように取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方は自由に休憩できる雰囲気を作っている。夜、眠れない様子の時は付き添う等し、無理な入床はしない。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全入居者の処方薬の把握までには至っておらず、今後の課題となる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画で役割や楽しみごとを盛り込んでいて、この先も膨らませていけたらと考える。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出は自由にしている。普段はいけないような場所への外出の希望には添えないことが多いですが、散歩やコンビに等に出かけることは普段から行っている。	朝の散歩や花壇づくり、ホーム前のコンビニへ買い物、近くの公園へ散策など出来るだけ外出の機会を多く作っている。2か月に1度は年次計画の中で、遠出のドライブをする計画も立てられている。冬場の朝の散歩も続けられ、1年を通じて健康維持に努めている。	職員の聞き取りから、もう少し外出の機会を多く作り利用者に楽しんでもらいたいとの事である。ホームの外で食事、外食の機会も作っていきたい。家族の参加も促すことで、家族同士の懇親の場も設定できるので、今後の検討を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人には所持してもらっていない。預らせてもらい買い物などの希望には一緒に出かけ買ってくるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が手紙を書くことは行っていないが、電話を掛けることはよくある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は皆さんリビングで過ごす時間が多く、座る位置も定まっていたり気の合う人の近くで過ごしている。リビングから見える中庭でプランターに野菜を植え一緒に手入れをしたり、季節感を取り入れている。	落ち着いた配色でコーディネートされたリビングは、天窓から差し込む光で明るく、隅々まで掃除が行き届いていて気持ち良く過ごす事が出来る空間となっている。食卓と厨房が近く調理中の匂いが漂い、食欲を誘っている。寛ぐリビングはソファが配置され、利用者は日中の殆どをここで過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるようにしていて、自然に気の合う人同士で過ごすようになってきている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には、使い慣れた物を持ち込んでいただくように話をしている。	居室は大きなクローゼットが設置され、多くの衣類や思い思いの大切な品物が収納されている。利用者が使い易いベット、家具、テレビ、仏壇が配置され、自分らしい設えとなっている。家族写真の掲示や装飾が施され、安心して暮らせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室のドアに目印、名前をつけている。今のところ大きな迷いは見られない。		